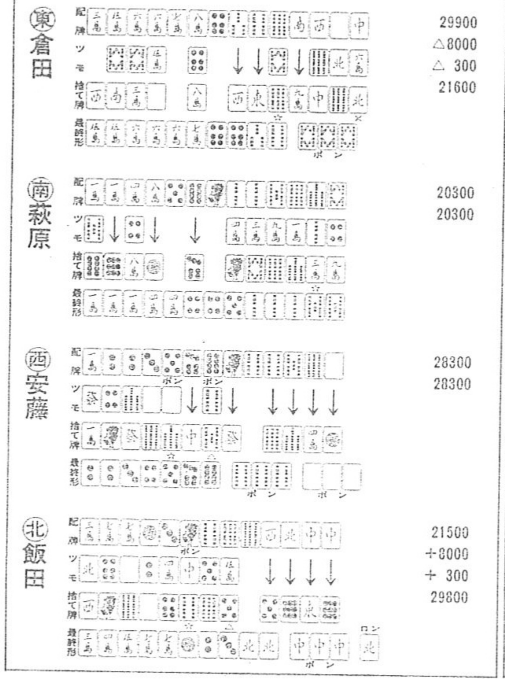
第6回麻雀最強戦 文 南波捲

THE 6TH SUPER POWERED MAHJONG 1994

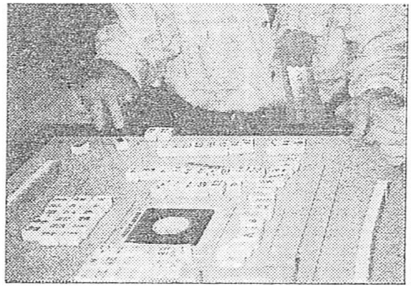
▶牌譜③

南4局1本場 ドラ🀃

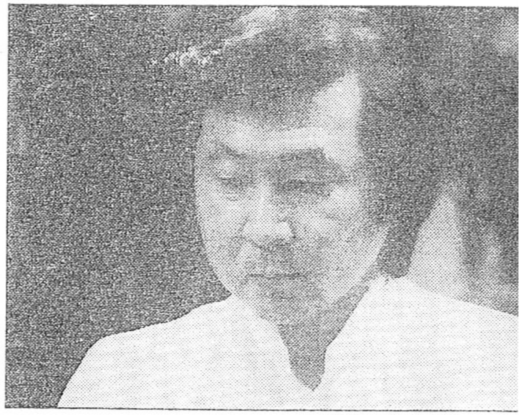


第6回 麻雀最強戦受賞パーティー
主催 株式会社竹書房 近代リジナル 近代麻雀ゴー 別冊近代麻雀

↑表彰式で、思わず4人は笑顔になった。



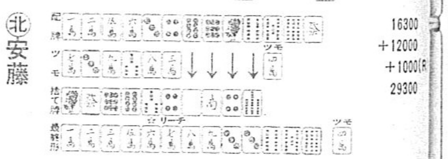
←オーラスの親ではトップを捲る粘りを見せた倉田てつを。



↑眼光鋭く卓上を見つめる「プロ」安藤満。

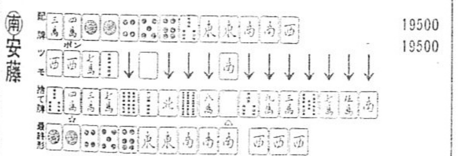
▶牌譜②

南3局0本場 ドラ🀍 ウラ🀗



▶部分牌譜①

南1局2本場 ドラ🀙 ウラ🀗



←「各界雀豪戦」に続き、今回も株式会社マツオカから卓が提供された。これは、優勝者に贈られた卓に抱きつく新最強位・飯田譲治。

された「プロ否定宣言」を真摯に、また怒りと悔しさを持って受け止めた。以来精進を重ね、絶対に勝つという強い信念と義務感を抱いて今大会に臨んでいるはずだ。決勝前に話しかけられるのは迷惑かもしれないが、やはりどうしても彼の肉声を聞いておきたかったのだ。

だが、安藤満の姿は卓の周囲にはなかった。

決勝開始直前に会場に現れた安藤は、観戦記者の特権で採譜者の真後ろに席をあてがわれた私の前に場を定めた。と、みやわき心太郎がテレコを差し出してコメントを安藤に求める。耳を澄ました私に、微かに安藤の声が届いた。

「プロとして、頑張ります」

開局の4巡目にリーチをかけたのは、親の萩原聖人だ。「各界雀豪選抜大会」の決勝戦でも彼は出親となり、いきなりリーチをかけている。この時は🀐一発ツモの4000オール和了だった。しかし今回は虚しくツモ切りが続く。萩原を追ったのは「ハコをかぶることになっても前に出る」覚悟の飯田譲治。🀡や🀛を大勝負。最後はドラスジの🀓まで叩き切ってリーチである。これに萩原がドラ🀐を放銃はシャボ待ちの満貫。萩原の表情が歪む。

続く東2局にも萩原は飯田にタンヤオを打つ。しかしここで腐らないのが彼の非凡なところだ。次局にピンフのみをダマでツモって態勢を立て直し、ひとりテンパイで流れをつかむと、南1局の親で高目イッツーのリーチ。今度は🀘ツモで4000オールを引きなおす。

他の三人とは背負うものの違う安藤は、しかし手にならない。ここまできて見せ場すら作れずに終わるのでは、あまりに非情な結末だ。そんなことを考えた南1局2本場。安藤がビッグチャンスをつかもうとしていた（部分牌譜①参照）。2巡目のオタ風🀂ポンですでにイーシャンテン。ハネマンから役満まで見込める大物手である。だが安藤は、7巡目の🀃をノータイムでツモ切り。絵に描いた32000のロマンと心中するほどウブではないのだ。

ハネマンを確定させた安藤は、親の萩原のリーチにも、倉田の追いリーチにも、もちろんノーガードで突っ張り通す。だが結果は倉田の和了。安藤の行く手に黄信号が灯った。

倉田てつをが、ジワリジワリと萩原に迫る。南2局に3900を安藤から取り、ついに逆転トップに立った。とはいえ点数は29900にすぎない。いよいよ苦しく、流れの悪い安藤以るが、安藤は決して死んでなどいなかった。

迎えたラス前。安藤がついに爆発したのである（牌譜②参照）。マンズが4枚の配牌に🀍🀏🀎🀉の鬼引きで6巡目リーチ。結果は意地と執念と誇りに満ちた乾坤一擲の🀊ツモ。ハネマン和了は地獄の淵からトップに大躍進である。

オーラスはまず倉田が1000点オールでふたたびトップ逆転。巷のアガリやめアリのルールならここで優勝である。

運命の1本場、勝利の女神は絶妙な演出で感動の決勝に幕をおろした。どうかじっくりと味わってほしい。（牌譜③参照）。

倉田はタンヤオで、萩原は最後の力を振り絞って四暗刻で、飯田は自風のドラ🀃にすべてを託して、安藤は早い仕掛けからの🀞🀡ツモで、栄冠をもぎ取ろうとしていた。

安藤と倉田は、ツモるか倉田から出れば優勝である。後ろで見ていて、私は安藤のアガリを確信していた。すぐに🀞🀡を引きアガるように思えたのである。と、河に🀡が捨てられる。飯田である。安藤はもちろん沈黙。2巡後にも飯田は🀡ツモ切り。何かが起こる。そう感じた瞬間、「ロン！」力強い声が響

放銃したのは倉田てつを。しかし彼に勝つ気があるのなら、絶対切らなくてはならないドラだった。

安藤は牌を伏せ、自分が次にツモる牌を静かに手に取っていた。それはもちろん🀡なのだった。

「安藤さん。本当にお疲れさまでした」そう語りかけると、安藤は柔らかな会釈を返してくれた。私はそれ以上言葉を続けることができなかった。安藤の心中を思うと、胸が詰まってしまったからだ。

闘いの後倦怠と心地よい疲労感が漂う中、最強の称号を手に入れた飯田譲治はこうスピーチを締めくくった。

「決勝の半荘は、本当に麻雀をやっててよかったという、充実した時間でした」

その思いは会場にいる者すべてに共通のものだった。飯田・安藤・萩原・倉田、その他の出場者諸氏に、私は一言感謝の気持ちを表して、長かった第六回「麻雀最強戦」観戦記のペンを置きたい。

皆さん、いい麻雀を見せてくださって本当にありがとうございました。皆さんの摸打と、麻雀という素晴らしいゲームそのものに、心からの敬意を捧げます。

（文中敬省略）